

地域	現況・課題	今後の方向性・要望
東大場	<ul style="list-style-type: none"> ○11月18日に防災訓練を実施予定である。 ○昨年までを振り返ってみると、若干マンネリ化をしているのではないかと思う。 ○今年は昨年と同じ様な形の訓練を行う予定である。昨年できなかった起震車を導入する。 	
三島パサディナ	<ul style="list-style-type: none"> ○起震車の体験、一番みんなに喜ばれていた。評判がよかった。 ○スモークハウスは故障で実施できなかった。 ○グループごとに交代で、放水の実験、三角巾の使い方、担架の練習を行った。三角巾は毎回やっているが、なかなか身につかない。 ○パサディナの自主防災の方々は自分たちの力だけで運営しようと積極的である。(消防団) 	
多呂	<ul style="list-style-type: none"> ○12月2日、防災の日に実施予定である。 ○9月から計画している。 ○初動の対応が重要である。 ○当日、どれだけの参加があるかで意識の高さをはかりたい。 ○救出・救護、担架を使って中高生に積極的に参加をしてもらいたい。 ○新しいものをつくるということではなく、今までやってきたことをバージョンアップしているという気持ちでやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○若者の意識を高めたい。
中島	<ul style="list-style-type: none"> ○毎年、8月の第3日曜日に実施している。 ○今年の新たな取り組みとして、自主防災の推進委員の公募を行った。40～50代の方、4名が立候補してくれた。これまでは会長・副会長が立案企画を行っていたが、今回はこの方々にも立案企画に加わってもらい、当日は大きな活躍をもらった。 ○地元の議員さんに、当日の応援と中島町内会自主防災の相談役のお願いをした。当日、訓練が終わった後、「指示待ち人間ではない、積極的な動きがあった」と、講評をいただいた。 ○その後、運動会も行ったが、別の議員から 	

	「中島も変わってきた。みんな積極的に動いている」というお褒めの言葉をもらった。運動会は防災から引き続いて積極的な参加があった。	
錦が丘	<p>○自治会ができて10年程度しか経っていない。若い親や、いろいろな地域から集まってきた人が多く、最初はまとまりが悪かった。</p> <p>○昨年から本格的に活動するようになった。今年は12月に訓練実施予定である。</p> <p>○消火器訓練を行う。20本の本物を使う。母親、子供たちから実際に使ったことがないので練習させてくれという声があった。</p> <p>○通常の怪我の手当て、スモークハウス訓練を行う。</p>	
	<p>○12月、バス2台で静岡の地震センターへ100名連れて行く予定である。そのうち、半分が小中学生である。</p> <p>○昼間は80パーセント以上の親が家にいない。学生の育成に力を入れる必要がある。</p>	<p>○5年後、10年後にくる地震を想定して子供たちを立派な戦力として育てる必要がある。</p> <p>○20～30名のジュニア防災士の訓練をする予定である。</p>
夏梅木	<p>○各組に自主防災の役員がいる。また、それを町内会全体でまとめる自主防災の会長がいる。防災訓練は年に1回の非常に大きなイベントだと思っている。</p> <p>○防災訓練は8月26日に実施した。例年は夜行っていたが、今年は午前中に行った。</p>	
	<p>○訓練内容は例年通りで、放水・消火器・チェーンソーの訓練、避難所生活の説明を行う。今年から新たに炊き出し訓練を行った。本当はお米から炊くということをやったかったが、時間がなかったため、非常食の紹介を行った。</p>	<p>●建物が倒壊したときに人を救出するにはチェーンソーが有効である。車のジャッキを使った救出方法もある。阪神淡路大震災のときは、このジャッキが大変役に立った。ジャッキも次の訓練の際に付け加えてはどうか。(市長)</p>
	<p>○きずな作りはしっかりやっている。月に1回、市の福祉センターに行って、昼ごはんを食べたりカラオケをしたり、お風呂に入ったりしている。夏梅木の老人会の人数が一番多い。22～23名の人が参加する。みんな楽しみにしていて喜ばれている。(老人クラブ)</p>	

	<p>○ジュニア防災士の育成講座を行っている。7月に小学生を対象に行った。11月に中学生を対象に行う予定である。中学校にもお願いしてあるが、たくさんの人に応募してもらいたい。</p>	
中	<p>○過去には防災訓練をやっていたが、ここ数十年やっていない。</p> <p>○東北の震災の影響を受け、防災意識を高めるための研修として、去年は静岡の防災センターに見学に行った。</p> <p>○今年も防災センターに行った。12月に防災キャンペーンとして講演をしてもらったり、宝くじのような形にして防災用品を配ったりする予定である。みんなに少しでも防災意識をもってもらうように工夫した。</p>	<p>○こういう席でいろいろな意見を聞き、参考にしたいと思っている。</p> <p>●錦田小学校区の東富士見では『黄色いハンカチ』を使った訓練の話が出た。地震の際、無事だという合図として黄色いハンカチを玄関のところに貼る取り組みである。防災に対する意識が大変高まったとのことだった。他にもいくつかの町内会で行われている。訓練に参加しなくても意思を表示できる簡単なものである。参考にしてみてもどうか。(市長)</p>
中郷中学校	<p>○去年の震災の時、中学校では先生の指導のもと、子供たちが地域ごとにまとまって集団で下校していたので学校の的確な判断が感じられて安心した。(PTA)</p> <p>○高校ではプリントが配られて、地域の防災訓練に参加したら、その証明をもらってくるシステムがあるので、息子は防災訓練に参加している。(PTA)</p> <p>○中学ではボランティアを募り、参加者をすべて記名して貼り出している。通知表に載るわけではないが、先生が参加したことを把握してくれているので、子供たちの意識も向上している。地域の廃品回収では先生たちも参加し、子供たちの参加を確認している。(PTA)</p> <p>○中学校では防災訓練に関して特に書類等はない。(PTA)</p>	
	<p>○子供たちはメリットがあるから参加するということが多い。(PTA)</p> <p>○何も訓練せずに本番を迎えるのと、1回でも訓練に参加して体制を把握しているのでは動き方が全く違うのではないか。(PTA)</p>	<p>○子供たちが何かにつられてでも参加してくれるような体制作りが必要ではないか。(PTA)</p>
向山小学校	<p>○昔は、何かあったときには学校の先生が子供につきそって親元まで送り届けることになっていた。しかし、平日に親が家にいる家庭はほとんどないので、震災時に引き渡す相手がいない。また家まで行くのは大変危険である。一番安全なのは学校なので、子供は学校においたほうがよいのではないか。(三島パサディナ)</p>	<p>○10年くらい前から、子供が学校にいるときには預かることが基本になっている。家に保護者がいるとは限らないし、小さい子を引き連れて家まで送るのは非常に危険である。また、一人の教員が何十人の生徒を家まで送り届けるのは不可能である。基本的にどんなに遅くなくても学校で預かる。迎えに来てもらい、安全が確認できた</p>

		<p>ときだけ引き渡す。</p> <p>○今のようなことも、子供がいる家庭には伝わりやすい情報だが、なかなか学校から自治会、地域の方へ伝わりにくいことが問題である。(地域まちづくり研究所)</p>
全体	◇防災訓練について	
	<p>●中学生も大変戦力になる。中学校からは、部活がなければ防災訓練に出るようという指導があるとのこと。(市長)</p>	<p>●中学生に戦力になってもらうよう、いろいろな体験をさせ、地域のみなさんから積極的なご指導があることを期待したい。(市長)</p>
		<p>●町内のモチベーションが低いときや訓練がマンネリ化しているときは、静岡の地震防災センターへ行って、様々な訓練事例を教えてもらったかどうか。例えば、取り壊すことになっている家を使って、救出訓練を行ったりしている。(市長)</p>
	<p>○中島やパサディナでの防災訓練に行ってきた。震災後、参加者が増えたように感じた。消火器訓練に関しては、以前は互いに押し付けあっている印象を受けたが、今は積極的な人が増えたように感じる。(消防団)</p>	<p>●みなさん積極的に防災訓練に参加しているようで、大変心強く感じる。三島の場合は火事が一番心配される。初期消火の訓練をしっかり行ってほしい。(市長)</p>
	<p>○中郷の方では、危機管理課の方に来てもらって講演を聞き、その中で携帯電話の災害時安否確認メールの使い方を学んだりした。(中郷女性学級)</p>	
	◇避難計画について	
	<p>○多呂の防災会議で、「これからは避難所に避難するということを考えるな。自宅で震災後も過ごせるように備蓄品を備えてほしい」と聞いた。今はもうそういう考えであることを初めて知り、驚いた。テレビで見る限り、震災が起こったら避難所に避難するのは当たり前だと思っていた。(中郷中PTA)</p>	<p>○こういった考えをもっとみんなに浸透させていった方がよい。(中郷中PTA)</p> <p>●先ほど見ていただいた薄いブルーの資料を、ご希望があれば町内各戸に配ることもできる。自宅で過ごすこと、耐震補強しておく必要があるということを理解してもらえるようにしていただければと思う。(市長)</p>
<p>○子供を預かることはよいが、学校は避難所である。ここに住民が押し寄せてきたらとても入る余地がない。(環境美化推進員)</p>	<p>○避難所に行くのは最悪の場合に限られるということをもっとみんなが認識する必要がある。(環境美化推進員)</p> <p>○西地区のようなところは、ほとんど焼けてしまうので西小学校に行かざるをえない。(環境美化推進員)</p> <p>○町内会と小学校のすり合わせが必要である。(環境美化推進員)</p>	

◇地域行事について	
<p>○運動会では、地域から出ている委員さんの動きがとてもよくて、運営がスムーズに運んだことがとても印象的だった。このような、住民が集まって協力する機会は減っているなので、きずなづくりをするよい機会だと思う。(スポーツ推進委員会)</p> <p>○運動会は8町内会でやっている。1町内会は都合が悪い。運動会は年齢制限があり全員が参加できない状態である。(三島市体育振興会)</p>	<p>○老人と子供と一緒に遊べる種目をつくりたい。(三島市体育振興会)</p>
<p>○事業計画の中で、町内会の人を集めて軽い運動などをしてもらう機会を作っている。町内会の回覧で告知をしているが、種目によっては結構参加してもらっている。(三島市体育振興会)</p> <p>○町内会長と年一回、事業について話し合う。種目別に参加の統計をとって、今後も継続するかどうか検討している。(三島市体育振興会)</p>	
◇地域の安全について	
<p>○東大場と向山小の間の外灯が少ないように感じる。木が生い茂ると暗い。(東大場自主防災会)</p>	
<p>○縦貫道で橋を作っているところにカーブがあるが、小学生が通るときに危ない。カーブが多くて細い道なのに、飛ばしてくる車が多くて危ない。(東大場自主防災会)</p> <p>○車の運転マナーが非常に悪い。子どもの事故があっては困るので、地域の方で安全運転の呼びかけを行ってほしい。(向山小)</p>	<p>○安全のために柵などを作ってもらいたい。(東大場自主防災会)</p> <p>●状況が私どもには少しくわからないので、担当に話しておく。(きずなづくり推進室)</p> <p>○昨年学校に文化振興課の方から、古墳の整備の際、公園の淵のところにガードレールに似たガードパイプを道路に沿ってつけ、来年までに完成させるという説明があった。環状道路のカーブしているところは来年に向けて直していくとのことだった。古墳のところのカーブはそのままだということだ。(向山小)</p>
◇地域の関係について	
<p>○町と町の境界線辺りに住んでいる方、中と南二日町、平成3年から住んでいた方を見落としていた。市の方では南二日町といわれているが、中の何組かにも入っている。見落としていた高齢者夫婦が「中に入っているが、名簿は南二日町の方にある。どちらの防災に入っているかわからない」と、心配していた。(民生委員)</p>	<p>○自治会の町内会長が持っている情報と自主防、民生委員が持っている情報、市の方がもっている情報とすりあっていない部分がある。すきまがある。(地域まちづくり研究所)</p>

	<ul style="list-style-type: none">●「防災訓練は自分が生き残るためにやる。その意識を忘れてはならない。」と、東北の震災で応援に行った医者が言っていた。しかし、自分の力だけでは助からないこともある。阪神淡路大震災のときに、瓦礫の下敷きになった人が助けられたのは、ご近所の人が6割、家族の人が2割だった。その助けを作るのがきずなづくりである。(環境市民部長)	<ul style="list-style-type: none">●きずなづくりの一番の基本は『向こう3軒両隣』の付き合いである。そこから、組・自治会に発展していけばよいと思っている。(環境市民部長)●町内会に入らない人が多い、老人クラブや子ども会がどんどん減っているという現状がある。そういうことをなくすために自治会が元気になり、校区全体できずなを作っていかななくてはならない。自治会単位での活動には限界がきている。校区で互いの地域を助け合わなくてはならない。そのために校区で話し合わなければならないし、行政でも何ができるか考えていかななくてはならない。(環境市民部長)
--	--	--